

第 18 回関西 MIST 研究会に参加しての学び

社会医療法人祐生会 みどりヶ丘病院 手術室看護師 山下 祐一

私が MIST 研究会に参加するのは 3 回目となりますが、今回の第 18 回関西 MIST 研究会ではコメディカルセッションにおいて、スライドを用いた発表とハンズオンセミナーへの参加をさせて頂きました。今までは諸先生方の発表を聴講し学びを得ていましたが、今回は当院脊椎センター部長成田医師より当院における MIST 手術への取り組みを発表してみないか、とお話を頂いたため発表をさせて頂く運びとなりました。スライドを作るにあたり何に重点を置き作成するべきか悩みましたが成田医師の助言、指導のもとに側臥位における体位固定の工夫を詳しく発表することにしました。どのような写真を使用しどのような言葉を用いれば相手に伝わりやすいかを考えながらスライドの作成をしました。本番では緊張のあまり早口になってしまい、さらに会場内をあまり見渡せておらず聞き手の表情を観察できていないなど反省点もありましたが、無事に発表を終えることができました。発表をすることでの学びとしては、スライドの作成にあたり自分達の行っている看護の振り返りをすることができるということでした。毎日のようにやっている看護技術の根拠を再考し、間違っていないか再確認する良いきっかけとなり脊椎チームで再度話し合いも持つ事ができました。また、発表後は会場内の同セミナー参加者より質問を受け、同じような環境で働く看護師と意見交換をする事ができました。今回の発表の学びと反省を活かし当院手術室へフィードバックしより良い手術看護へと昇華させていきたいです。今後もこのような発表の機会があればまたぜひやってみたいと思える発表となりました。

ハンズオンセミナーでは一般的な器械説明と違い、モデルボーンを用いて本物のスクリューを挿入するなど実際の手術に近い形で器械への理解を深める事が出来ました。私が参加したハンズオンセミナーのグループでは、熊本医療センターの橋本伸朗先生、自衛隊中央病院の松川啓太郎先生が株式会社東機貿の ILICO SE の器械を使用して講義を交えながら PPS の実際を指導して頂きました。PPS のポイントであるニードルの使用方法から始まりガイドピン使用時の力加減やなぜ危険を伴うのか、スクリューを挿入時の注意点、コンプレッションをかけた時に必要な器械とその使用方法、またトラブル発生時の対処方法など様々な内容を教えて頂きました。基礎的な解剖学から専門的な内容まで教えて頂き、また今まで使用した事のない器械についても理解を深めることができ大変勉強になりました。ハンズオンセミナーのメリットは少人数制であるため、普段から疑問に思っている事や講義、指導を受けて理解できなかった事をすぐに質問することができ早期に解決できるといったことがあります。他のハンズオンのコーナーでは OLIF や X-core など、どのコーナーも興味を引く内容ばかりでしたが時間が足りず泣く泣く断念しました。また次回のハンズオンセミナーに参加し講義を受け学習したいと考えております。

セミナーの目玉でもある和歌山県立医科大学の山田宏先生の XLIF の講義では看護師で

も理解しやすい内容であり、後腹膜臓器の話や XLIF のケージの挿入位置のポイント、MEP 使用時の注意点、血管損傷時の対応など興味のある内容ばかりで大変勉強になりました。今まで XLIF の手術には器械出しや外回りで何度もついていましたが、今回の講義を聞いて臨床で役立つ内容ばかりであったので当院でも実践していきたいと思いました。

最後に行われた情報交換会では香川県立中央病院の生熊先生ともお話をすることができ、側臥位 PPS 時の清潔ドレープのかけ方ですぐに実践できる方法を学ぶことができました。MIST 研究会ではたくさんの医師から様々な講義を聞くことができ、ハンズオンセミナーやコメディカルセッションなど看護師対象の教育が充実していると感じました。今後も精力的に研究会に参加し、常に新しい事を学び吸収して臨床で実践していく事と、自分だけではなくスタッフにも広め、手術室チーム一丸となって手術看護に臨んでいきたいと思えます。

